

# 令和5年度 放課後活動指導者研修④ 実施報告

実施日：令和5年6月28日（水）

◎ 当研修は、放課後子ども教室において、子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行うことができる場づくりに必要な知識や技術の習得を図るための研修です。第4回は総合教育センターで実施し、56名が参加しました。

## ○ 講話・演習「子どものプログラムを体験しよう」

- ・ 「ビー玉を使って作る工作」 講師 栃木県子ども総合科学館 展示課長 室岡 久男 氏

栃木県子ども総合科学館展示課長の室岡久男氏を講師にお招きし、ビー玉を使ったコマづくりを行いました。まず、2つのビー玉をホットボンドで接着して作ったコマを回してみました。つぎに、ビー玉を4つに増やすとどのように回り方が変化するか予想をしてから接着し、出来上がったコマを回してみました。受講者は、今まで考えたことがなかった問題を出されたことにより、より楽しみながら工作に取り組みました。簡単な工作の中に「新たな疑問について予想をする」、「わくわくしながら作成する」、「結果に驚く」など、子どもたちの活動をよりよくするための工夫があることに気付く演習となりました。また、子どもたちの活動を安全に進めるためのポイントや準備の重要性についても説明がありました。受講者は、演習で学んだことを夏休みの工作活動に取り入れることを目標に、楽しみながらも真剣に演習に取り組んでいました。



- ・ 「レクリエーションを体験しよう」 総合教育センター職員

子どもの特性や活動場所に応じたレクリエーションについて学ぶ演習を行いました。まず、レクリエーションの意義や目的と、安全に活動するための環境整備などの注意事項を確認しました。次に、新聞やピンポン球を使ったレクリエーションを体験しました。子どもたちが楽しく活動するためには「速さ・順位を競う」ばかりではなく、他のグループとの違いに気付くことのおもしろしさや、友達と協力することの楽しさに気付かせることも大切であることを説明しました。受講者はレクリエーションを体験しながら、グループの作り方や子どもへの指示の出し方などについても学びました。



## ○ 協議「活動の状況とプログラムの見直しについて話し合おう」 総合教育センター職員

グループに分かれレクリエーションの体験について感想を交換した後、普段どのような活動を行っているか、活動をさらに良くするためにはどのような工夫が必要かについて協議を行いました。受講者は協議から、新しい気付きを得たり、悩みを共有したりと有意義な時間を過ごすことができました。



### ★ 受講者の声 ★

- 身近な子どもの遊び道具の一つであるビー玉で、ここまで科学的に考えることができることに驚きました。活動の工夫の大切さを知ることができました。
- グループづくりや声掛けの工夫など、現場で使える工夫があって役立ちました。夏休み中のイベントに導入したいと思います。
- レクリエーション体験をもとに子どもたちに楽しい時間を提供したいと思います。
- レクリエーションゲームを取り入れて活動しているが、いつもグループで速さを競っていました。「ゆっくり丁寧に」の視点に気付きました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL: 028-665-7206 e-mail: [skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp](mailto:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp)